2026年11月13日

各　位

会 社 名　株 式 会 社 レ ン ト ラ ッ ク ス
代表者名　代表取締役社長　山﨑　大輔
（コード番号：６０４５　東証グロース）
問合せ先　取締役管理本部長　椙尾　幸介
（ TEL. 03-3878-4159）

# 2027年３月期第２四半期累計期間連結業績予想との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2026年５月15日に公表しました2027年３月期第２四半期累計期間（2026年４月１日～2026年９月30日）の連結業績予想と本日公表の実績において、下記のとおり差異が生じましたのでお知らせいたします。また、2026年５月15日に公表しました2027年３月期通期（2026年４月１日～2027年３月31日）の連結業績予想につきましても下記のとおり修正しましたので、併せてお知らせいたします。

記

１．2027年３月期第２四半期連結累計期間の連結業績予想と実績の差異

（2026年４月１日～2026年９月30日）　（単位：百万円）

| | 取扱高 | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する中間純利益 | １株当たり中間純利益 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 前回発表予想（Ａ） | 38,051 | 21,669 | 599 | 588 | 447 | 56円97銭 |
| 実績値（Ｂ） | 37,739 | 21,804 | 245 | 260 | 158 | 20円13銭 |
| 差異額（Ｂ－Ａ） | △311 | 134 | △353 | △328 | △289 | － |
| 差異率 | △0.8% | 0.6% | △59.0% | △55.7% | △64.7% | － |
| （ご参考）前期第２四半期実績（2026年３月期 第２四半期） | 16,889 | 2,138 | 669 | 666 | 415 | 52円88銭 |

（注）増減額は、百万円未満を切り捨てる前の金額に基づき算出しております。

２．2027年３月期通期の連結業績予想の修正

（2026年４月１日～2027年３月31日）　（単位：百万円）

| | 取扱高 | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | １株当たり当期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 前回発表予想（Ａ） | 76,201 | 43,182 | 1,302 | 1,258 | 906 | 115円43銭 |
| 今回修正予想（Ｂ） | 72,932 | 40,243 | 1,022 | 1,009 | 908 | 115円66銭 |
| 増減額（Ｂ－Ａ） | △3,268 | △2,939 | △279 | △249 | 1 | － |
| 増減率 | △4.3% | △6.8% | △21.5% | △19.8% | 0.2% | － |
| (ご参考)前期実績（2026年３月期 通期） | 34,127 | 4,440 | 1,051 | 1,038 | 2,570 | 327円18銭 |

（注）増減額は、百万円未満を切り捨てる前の金額に基づき算出しております。

３．2027年３月期第２四半期累計期間連結業績予想との差異の理由

当社グループは、インターネットマーケティング事業とリユース事業を今後の成長の両輪と位置付け、収益基盤の多様化と持続的な企業価値向上に向けた事業ポートフォリオの構築及び経営資源の最適配分を進めております。

また、こうした事業展開に伴い、グループ管理体制の整備を進めるとともに、新たに生じる会計上の論点についても、外部専門家の知見を活用しながら継続的に検討し、必要な対応を行っております。

こうした中、今回の利益面への影響につきましては、連結子会社である井嶋金銀工業株式会社の貴金属リユース・加工・精錬事業において、買収時に認識した棚卸資産の時価評価差額に係る売上原価への振替及び棚卸資産の評価損の計上により、売上原価が約13億円増加いたしました。

当該事業では、井嶋金銀工業株式会社を子会社化した2026年２月における貴金属価格が高い水準にあり、買収時の棚卸資産の時価評価が前連結会計年度の負ののれん発生益の算定に反映された一方、その後の相場下落が今回の売上原価増加の背景となっております。

これらの会計処理による影響を反映する前の営業利益及び経常利益は、当初予想を上回る水準にありましたが、当該影響を反映した結果、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益は、当初予想を下回る結果となりました。

以上の結果、2027年３月期第２四半期連結累計期間におきましては、取扱高37,739百万円（当初予想比0.8％減）、売上高21,804百万円（当初予想比0.6％増）、営業利益245百万円（当初予想比59.0％減）、経常利益260百万円（当初予想比55.7％減）、親会社株主に帰属する中間純利益158百万円（当初予想比64.7％減）となりました。

４．2027年３月期通期連結業績予想の修正の理由

通期連結業績予想につきましては、第２四半期累計期間の業績及び下期の事業環境や収益見通しを踏まえ、見直しを行いました。

また、貴金属リユース・加工・精錬事業におきましては、上期において貴金属相場の下落に伴う売上原価の増加により利益面への影響が生じたものの、今後の事業収益力に対する見通しに大きな変更はなく、引き続き安定的な収益の確保を見込んでおります。

当該事業における棚卸資産の評価には低価法を適用しておりますが、現時点において、第２四半期累計期間に計上した売上原価増加額と同規模の追加的な影響は想定しておりません。ただし、金、銀、プラチナ等の相場が大きく変動した場合には、業績が今回の予想と異なる可能性があります。

以上を踏まえ、2027年３月期通期の連結業績予想につきましては、取扱高72,932百万円（当初予想比4.3％減）、売上高40,243百万円（当初予想比6.8％減）、営業利益1,022百万円（当初予想比21.5％減）、経常利益1,009百万円（当初予想比19.8％減）、親会社株主に帰属する当期純利益908百万円（当初予想比0.2％増）に修正いたします。

当社グループは、今後も積極的な事業展開に伴う様々な変化に適切に対応するとともに、株主・投資家の皆様に対し、業績への影響を含めた適時適切かつ丁寧な情報開示に努めてまいります。

５．配当予想及び株主優待制度について

2026年５月15日に公表いたしました2027年３月期の配当予想の修正はございません。

また、2025年９月19日に公表いたしました、「株主優待制度における対象条件の変更（継続保有要件の追加）に関するお知らせ」に記載の株主優待制度につきましても、変更はございません。

(注)本資料における業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以　上